

「日本・スウェーデン ビジネスサミット」を後援

スウェーデン国王カール16世グスタフ陛下の臨席のもと、国内外から日本・スウェーデン両国の企業経営者や気鋭の起業家が一堂に会し、「日本・スウェーデンビジネスサミット」が4月24日に開催された。

今年が外交・通商関係150周年にあたる日本とスウェーデンを代表する経済人が集まり、「グローバルビジネスの改革－破壊的イノベーションの時代に競争力を維持するために」を主題に意見を交わした。本会からは、小林喜光代表幹事が開会挨拶で登壇した。

スウェーデンからは、インベスター社のヤコブ・ワレンバーク会長、アン・リンデEU貿易大臣が開会の挨拶を行い、日本政府からは、大串正樹経済産業大臣政務官が式辞を述べた。また、基調講演では、筑波大学の准教授でメディアアーティストとして著名な落合陽一氏が登壇した。

最初のパネルディスカッションでは、「グローバルビジネスの再構築」をテーマに志賀俊之副代表幹事と小林いずみ副代表幹事がパネルに参加。社会が急

速な変化を遂げる中、企業が更なる成長を遂げるにはどうすれば良いか議論がなされた。高齢化社会・男女共同参画や資源の効率化への対応、企業のデジタルトランスフォーメーションなど多岐にわたるテーマが扱われた。

その後の分科会では、本会会員がそれぞれパネラーを務め、ひと・イノベーション・パートナーシップの視点から議論を深めた。あらゆるステークホルダーが国境や業界の壁を越えてより緊密に協力することが重要という共通認識がまとめられ、最後のパネルディスカッションでは、朝田照男副代表幹事と程近智副代表幹事が「さらに先へ進むための戦略」と題して討議を重ねた。2国間における過去最大規模の経営者会議となり、双方の協力を一層強化する良い機会となった。



パネルディスカッションに参加した志賀俊之副代表幹事(右から3人目)と小林いずみ副代表幹事(左から2人目)